

国際交流事後活動ニュース

MACRO COSM

◎特集 今、アセアンがおもしろい
●レポート アフリカ政治あらかると

マクロコズム '95.9



(財)青少年国際交流推進センター

vol. 6

「東南アジア青年の船」アセアン各国既参加者組織の活動紹介

日本青年国際交流機構（IYEO）が、「東南アジア青年の船」のアセアン各国既参加者組織と国際連携組織である SSEAYP International（シアップ・インターナショナル）を1987年に結成してから、今年で8周年を迎えます。今や、各国組織は、社会に貢献できる団体を目指して様々な活動を展開しています。今回は、彼らの活動の一部を紹介し、活躍の様子を知っていただくとともに、日本の皆さんの活動に対する刺激となることを願っています。

社会に貢献できる組織を目指して!



◀ 1987年「アジア・ユース・フォーラム」の際の代表者会議。この席で、SSEAYP International の設立が決定されました。それを受け、翌1988年、第1回総会（略称 SIGA: SSEAYP International General Assembly）がマレーシアにおいて開催されました。



タイの既参加者組織
ASSEAY Thailand
 「タイ青少年の船」

タイの組織は、アセアン6か国中最も活動的です。今までに、難民キャンプへの支援や日本語教室の開催等様々な活動を行ってきました。

昨年は、高校生を対象とする「青少年の船」を行い大きな成果をあげました。（本文P.5）



▲ ASSEAY Thailand 会長グワンポット氏 青少年の船参加青年とともに

ゴムボートで ▶ 海事訓練





フィリピンの既参加者組織

SSEAYPAA Philippines, Inc.

人形劇制作成功！

フィリピンの組織では、昨年8月末にエピファノ・レッド・ジュニア監督のもと、アニノ影絵劇団と協力して人形劇20分フィルムを作成しました。環境を保護するために土着の文化コミュニティに焦点をあてています。

この企画は、SSEAYPAAとフィリピン環境財団の寄付で実現され、わずか10万ペソ（1ペソ≒3.8円）の予算で次の4つの短編をまとめました。

①ミンダナオ島の人々の団結と自然の守り役としての土着の人々を描いた「ミンダナオとパグラウム」、②民話の登場人物5人が、もし自然が失われてしまったら世界はどうなるかを教える「ナナイ・コン・カルボ」③地球の生物の守り神と、河川、空気、大地を破壊する龍との闘いを描いた、このプロジェクト最高傑作の「アグタヤブン」④最後の「マゼラン」は、マゼランとラブラブという二体の人形がこの歴史劇をおもしろおかしく進めます。西洋諸国の植民地化が、現地の人々の生活様式に及ぼす影響の重大さを、マゼランが再発見するものです。



▲ シアップ・インターナショナルのTシャツを着て、避難した島民に物資を分けているメンバー

RAINBOW LOVE PROJECTS

SSEAYP Internationalの共通活動に、レインボー・ラブ・プロジェクトと名付けられた、貧しい人々や災害による被害にあった人々を救援する活動があります。

ピナツボ火山噴火の際には、SSEAYPAAが1991年から92年にかけて支援活動を展開しました。

◀ 「世界青年の日」を設定し、現代社会が直面している様々な問題についてディスカッションを行いました。





シンガポール既参加者組織

SSEAYP International Singapore

各国組織代表者会議

(略称 COP: Council of President)

アセアンの中でも最も動きの早いお国柄らしく、国際会議等をまとめるのはお手のもの。

SSEAYP International 総会 (SIGA) に加えて新たに代表者会議を開催する方針が決定した際、ホスト国として最初に手を上げたのは、やはりシンガポールでした。

▼ 1994年10月に開催された代表者会議



インドネシア既参加者組織

SSEAYP International Indonesia

数多くの島によって構成されているインドネシアにおける活動は、全体をまとめることがとても難しく、ジャカルタ中心となることが多い。受入れ活動に熱心で、沖縄県青年国際交流機構主催の「沖縄県青年の翼」事業が、1993年、1994年と2年続けてお世話になりました。



ブルネイ既参加者組織

BERUSATU



▲ BERUSATU が開催した「国際青年理解セミナー」の分科会

1985年から「東南アジア青年の船」に正式参加し、1987年には既参加者組織が結成され、すぐに各国組織と活動を共にするようになりました。



マレーシア既参加者組織

KABESA

設立されたばかりで、その開催について心配された SSEAYP International の第1回総会を、1988年に見事に開催した実績をもっています。昨年は、マハティール首相が提唱した「第1回東アジア青年指導者会議」のサポートもしました。

(マクロコズム Vol.2 P.22 参照)

未来を切り開く力を! 「タイ青少年の船」

タイの「東南アジア青年の船」既参加者組織である ASSEAY Thailand の主催により、1994年5月25日～29日の間で「タイ青少年の船」が開催されました。タイ国内の各州から選抜された15歳から18歳の青少年250名と SSEAYP International の繋がりでも招待されたフィリピン、インドネシア、日本の各国既参加者組織メンバーのオブザーバー参加を得て行われました。

ディスカッションでは、現在タイが直面している社会問題を正面から取り上げ、積極的議論が展開されました。

「実行に当たっては、資金の確保が大きな問題でしたが、多くの関係者の理解を得て念願のプログラムが実行できたのです。」とタイのメンバーが誇らしげに語ってくれました。「東南アジア青年の船」の成果は、既参加青年の活動により広く社会に還元されているのです。

■ディスカッションテーマ

- * 家族・AIDS——家族の絆を大切に——
- * 文化——いかにタイの文化を守っていくか——
- * 麻薬——子供を麻薬から守る親の責任——
- * 環境——自然との共存——



▲ ナルンユアン島の海辺にて

「タイ青少年の船」主な日程

- | | |
|------|---|
| 5/24 | オリエンテーション、講義、開会式、夕食会、カルチャーショー（於：バンコク） |
| 5/25 | 旧国会議事堂見学、下院議長表敬訪問及び同氏による講義、首相表敬訪問、王宮見学、講義 |
| 5/26 | 講義、アンダマン・プリンセス号乗船、出航、講義、小討論会、バラエティ・ショー |
| 5/27 | 船内見学、ディスカッション、避難訓練、サムイ島見学、民族文化のつどい |
| 5/28 | ナルンユアン島でシュノーケリング、ディスカッション発表会、修了式、修了パーティー |
| 5/29 | バンコク帰港、下船、解散 |

主な内容

「タイ青少年の船」..... 5	「船と翼の会ふくしま」紹介 15
ベトナム「マングローブ塾」..... 6～7	世界の国際交流活動「ケア」..... 16～17
アフリカ政治あらかると 8～11	事後活動アンケート調査結果より 18
日・韓青少年指導者交流.....12～14 (大阪府青年国際交流機構受入れ報告)	お便りコーナー(ブルネイ・カンボディア) 19
	お知らせコーナー 20

〈表紙の説明〉

インドネシア・5才の
シェイラ・クスマさんの
「私の夢」
アジアのこども絵画展より
入賞作品

ベトナム「マングローブ塾」レポート



関西アウトドアスクール校長

ふた な よし ひ
二 名 良 日

(平成6年度 タイ派遣団団長)

◀ ベトナムのマングローブ研究第一人者である
フォン教授（ハノイ大学）と筆者（右側）

総務庁・外務省の後援を受け、第8回を迎えた「ジュニア・サミット・キャンプ」が、7月31日に瀬戸内海の前島で10日間の幕を閉じました。

アジアを中心に、世界の10数か国から120名もの青少年が集ったこのキャンプの今年のハイライトの1つは、ASEANへの正式加盟を決めたベトナムの子供たちの招待でした。

キャンパーの中に旧知のホーチミン市農業局の幹部の子弟や、エスコートの中に「マングローブ・エコシステム・リサーチセンター」の職員の姿を確認し、私がかかわっている日本とベトナムのマングローブ植林を通じた交流が着実に育ち始めていることに意を強くしました。

ベトナム「マングローブ塾」運動の原点は「砂漠に緑を」という農大OBの向後元彦氏らのマングローブ緑化事業にあり、その中東などでの努力に賛同した民間教育団体「能力開発センター」（神戸市・増澤 空代表）の支援申し出によって、ベトナム版「マングローブ植林計画」に急発展したことに始まります。

具体的には同センターが社会貢献の一環として五か年計画で数千万円を拠出することにより、ガラパゴスのダーウィン研究所のような世界的なエコ拠点を創出し、地球自然の問題を実際的にフィールドワーク体験しながら考えるエコツアーの受け皿としながら、環境教育や国際交流を実習する青少年活動としての「マングローブ塾」を開催して行こうということで計画が進みました。

地球の緑を守る運動の象徴として、数多い植物の中で、「何でマングローブなのか……」というような話にも夜遅くまで花が咲きましたので、もう一度マングローブ情報を整理してみます。

マングローブって？

マングローブは、海岸や汽水の中でも生存できる常緑樹の総称で、ヒルギ・ハマザクロ・シクシン・クマツヅラ・センダン・ヤブコウジ・アカネ・キツネノゴマ科など約100種が知られています。水中・泥中など酸素を吸収しにくい環境にあるため「呼吸根」が発達しているものが多く見られます。

発生系譜的には、陸地の森の植物だったマングローブが、ジャングルの過密を嫌い、胎性種子などの特異な生命力を活かして川に流れ、数万年もの時間をかけて競争相手の少ない海に進出した「ウォーキング・プランツ」(歩く植物)ともいわれています。

植物にとって海水は乾燥地と同じ厳しい環境で、水分があっても吸収しにくい「生理的乾燥状態」だといわれますが、海に進出したマングローブは、古い葉に塩分をためて落として外部に排出したり、ガクの特殊な細胞腺で塩分をブロックするなど不思議な機構を完成させて生き残ってきました。

生活の中のマングローブ

これらのマングローブの仲間は日本にも分布しており、ヤエヤマヒルギは薪や炭として重宝がられ、オヒルギと共に樹皮のタンニンが薬・染料・皮なめしに、タンガラとして漁網の防腐にも用いられました。マングローブの生活文化利用は、汎アジア的な広がりを見せており、アラビア海の帆船ダウの船材や支柱をはじめ、足場材・パルプ・飼料(ラクダ・水牛・ヤギ)・食糧(カレー・茶)・薬(下痢・ハンセン病・コレラ)・防潮林などと極めて多様で、人々の暮らしにいかに貴重な存在であったかがわかります。

なぜベトナムのマングローブなのか?という、ベトナム戦争のアメリカ軍の枯葉作戦で消滅したマングローブ林を復活させようという自主的な動きが現地にあったからです。我々が重点的に訪れたホーチミン市南部のカンザー地区では、営林関係者らの努力で、新生マングローブ林は高さ10m以上にも達し、鳥や魚なども棲みついて、その若々



▲ マングローブのクリークに行く調査団

しい息吹きに新しい希望を感じました。

1年に1mものびる生命力の素晴らしさへの感動と、その分布地域が南側開発途上国の四分の三にあたり、急激な開発や生活のために、その緑が急速に失われつつあるという危機感の象徴としての役割がこの運動の特質のように思えます。

ベトナムのマングローブ研究の第一人者であるハノイ大のフォン教授の現地講義を聴きながら、新たな植林苗畑を見学したり、カンザー人民委員会との土地利用貸借調印も済ませることができ、来春のゲストハウス完成スタートに向け、大きな前進がありました。

来春の夏休みに予定している第一回の「マングローブ塾」エコツアーに向けて、8月下旬から、雨期視察のため再度ベトナムに行きます。皆さんを迎える準備もしてこようと思いますので、関心のある方は、今から予定を立てておいてください。「マングローブ塾」で会いましょう。



アフリカ政治あらかると

—— キーワードの
やさしい解題のために ——

おち あい たけ ひこ
落 合 雄 彦

(第12回東南アジア青年の船及び
第2回世界青年の船参加青年)

「もし、小さな男の子が壺を割ってしまったら、その子はきっとお母さんのところへ行って、『壺が割れちゃった』と言うだろう。『ぼくが割ったんだ』とは言わず、『割れちゃったんだ』と。

では、誰がいったいこれを割ってしまったのだろうか。私たちがだ。そう、私たちがこの壺を割ったのだ」

(ローリングス・ガーナ大統領)

■はじめに：「これからの大陸」?

初めてお会いした方に、私が大学でアフリカ政治の研究をしていると告げると、「へー、そうですか。アフリカは『これからの大陸』ですからね。研究、がんばってくださいね」といった励ましのお言葉を頂戴することがときどきある。有難い声援だ。が、私は、そんなとき内心想わずにはいられない、「でも、アフリカは、『これから』、『これから』と言われ続けて、もう40年近くも経っちゃったんじゃないか!」。

1957年、エンクルマの強力なリーダーシップのもとでガーナがイギリスから独立したとき、アフリカは、輝いていた。サハラ以南アフリカ(通称ブラックアフリカ)のなかでいち早く独立を達成したガーナは、黒い星(ブラックスター)をそ



▲
タンザニア・アルーシャ市で開催されたアフリカ経済改革セミナーの参加者ととも(一番左が筆者)

の国旗の中央に掲げたが、まさにガーナはアフリカの希望の星であり、またそれはアフリカという大陸全体の前途洋々たる未来を象徴する星でもあった。なのに、どうしてこうなってしまったのだろうか。その後多くのアフリカ諸国は、独立こそ達成したものの、クーデター、軍部政権、内戦、人権抑圧、大量殺戮、貧困、経済停滞、飢餓などなど、まさに「踏んだり蹴つたりの歴史」を歩んできた。恋愛につけ、人生につけ、およそ何事にも「バラ色」という言葉がつくと、そこにはどこか

淡くはかない響きを感じられるものだが、独立期のアフリカ諸国の国家指導者たちが胸に秘めていた「バラ色の未来像」ほど脆くも崩れ去ったものはほかにない。引用したローリングス大統領の言葉を借りれば、いったい誰がアフリカという壺をここまで無残にも壊してしまったのだろうか。この小文では、そうした点を脳裏の片隅に置きながら、アフリカ政治のいくつかのキーワードをごく簡単に解説していきたい。

■「植民地の遺制」の伝統

アフリカ政治に関する横文字の文献をひもとくと、しばしば“colonial legacy”という英単語にぶつかる。この「植民地の遺制」という表現は、西欧列強による植民地支配という不幸な歴史がアフリカに遺した制度一般のことを意味し、アフリカの人工的でいびつな国境線がその典型的な負の事例としてしばしば挙げられる。しかし、「植民地の遺制」はそればかりではない。考えてみれば、アフリカは、国民に選出されたわけでもないごく少数の支配者層が国を力によって統治するという政治システムそのものを植民地主義の伝統から継承したともいえよう。1980年代末までのアフリカの国家指導者は、大統領選挙をしなかったり、たとえ選挙をしても自分以外の候補者の立候補を許可しなかった(!)りしたために、国民の選挙によって政権の座を追われるということがほとんどなかった。その意味で、彼らは、植民地時代の白人行政官同様、平たくいえば「独裁者」であったといえる。軍隊も然りである。植民地時代の軍隊は、国防に加え、しばしば国内のアフリカ人抵

抗運動を弾圧するために動員されたが、独立後のアフリカの軍隊もまた、外敵から自国を守るというよりも、しばしば政府に反逆する国内の危険分子や市民を弾圧するための、いわば「内向きの暴力装置」として機能してきたのである。

では、アフリカという壺を壊してしまったのは、植民地化という外的要因だったのであろうか。確かに、植民地化がアフリカに遺した爪痕は深い。しかし、現代アフリカの諸問題の原因すべてを植民地主義に帰するのは正しくないし、何よりも「(新)植民地主義がすべての元凶だ!」とする乱暴なアプローチは、アフリカの主体性という視点を見失ったものといわざるをえない。

■「部族」の迷宮

「部族」という言葉は、実にやっかいだ。英語圏の学者は、「部族」にあたる“tribe”という表現を差別用語とみなして今日ほとんど使わなくなっている。日本のアフリカ研究者の間にも、「部族」という表現の使用を同じ理由からできるだけ避けようとする傾向がみられる。確かに、なぜボスニア紛争が「民族」問題で、ルワンダ内戦が「部族」問題とされてしまうのか、両者の使い分けの基準は釈然としない。「アフリカ人は『遅れた人々』だから、『民族』よりも『部族』という表現の方がピッタリだ!」とでも言うつもりかと思わず食ってかかりたくもなる。しかし、である。たとえ「部族」と呼ぼうが、「民族」と呼ぼうが、あるいは「エスニシティ」と横文字でごまかそうが、アフリカ政治のアリーナには「部族」ともいうべき人間集団が確かに実在するのである。大統領が自



◀ タンザニア・タルエスサラーム市にある日系の電池工場

分の「部族」の出身者を政府や軍隊で優遇し、他の「部族」出身者を差別するといったことは、アフリカでは日常茶飯事といえる。ルワンダのように、「部族」対立が大量殺戮へと発展してしまう地域もある。「部族」というアイデンティティの悲しい現実だ。

しかし、アフリカの「部族」が、何千年もの昔から変わらず存在する集団だとするのはおそらく誤解であろう。むしろ、いま私たちがいう「部族」とは、アフリカの歴史のなかのごく最近できたものといえよう。もちろん、植民地化以前のアフリカはいわゆる「部族」社会であったが、その当時の「部族」はいまのそれとはかなり異なるものであったに違いない。近現代のアフリカ社会における「部族」とは、古代・中世のそれとは異なり、より政治的に覚醒し、やや逆説的な言い方をすれ

ば、近代化された民族的利益集団なのである。そして、アフリカでは、そうした「部族」のアイデンティティこそが、政治経済的野望を実現するための手頃な道具としてしばしば利（悪）用されてきたのである。

■「個人支配」の体制

もし、支配するための正統性が、神によっても、伝統によっても、法によっても、あるいはその他のあらゆる権威によっても与えられていなかったら、いったいどうやって人は国を統治をすることができるだろうか。情実と恐怖に頼るしかない。いわゆる「飴と鞭」の論理だ。言うことに従う人間には官職を与え、安全を保障し、金銭面での恩恵を与え、逆らう人間に対しては差別し、排斥し、

ときには肅正するのである。政治学の世界では、前者の「飴」の論理を「クライアンティズム」とか「パトロン＝クライアント（親分＝子分）関係」とかいう。後者の「鞭」は、いわゆる「恐怖政治」のことであり、アフリカにおけるその代表例としては、ウガンダのアミン、中央アフリカのボカサ、エチオピアのメンギスツなどが挙げられよう。

そして、この「クライアンティズム」と「恐怖政治」という二つの車輪によって維持運営されてきたのが、アフリカにおける「個人支配」の体制である。つまりそれは、国家元首が国を治めるといよりも、その地位をしばしば力によって奪取した一個人が公私の区別なく国を統治するシステムなのである。

■「民主化」の潮流

1980年代末から90年代前半にかけて、アフリカはこれまでにない大きな変革の嵐を経験することになった。「民主化」の潮流である。多くの国々で一党支配体制が崩壊して複数政党制が導入され、ガーナなどでは選挙が実施されて政権が軍部から文民へと（形式的ながらも）移行し、南アフリカではアパルトヘイト体制が終焉して異人種間の和解が進展し、モザンビークでは内戦が終結して総選挙が実施された。こうした「民主化」の結果、長年にわたって政権を独占してきた幾人かの国家指導者が大統領府を追われることとなった。ベニンのケレク、ザンビアのカウンダ、マラウイのバンダなどである。独立から40年近くが経とうとしている今日、声なき国民がやっと声を持つようになり始めたのである。

壺は自分から壊れない。アフリカという壺は、おそらく外的要因と内的要因の双方によって壊れてしまったのであろう。しかし、誰が壺を壊したのかということ以上にいま重要な問いは、誰がこの壺をもう一度焼き直すのかということであるのかもしれない。そして、その主役が声を持ち始めたアフリカの人々自身であることは、もはや言うまでもない。

タンザニアにあるアルーシャ宣言記念塔

1967年、タンザニア大統領ニエレレは、アルーシャ市でタンザニアの社会主義化を宣言した。しかし、同路線はのちに頓挫した。



第2回日・韓青少年指導者交流（招へい）

昨年から始まった日・韓青少年指導者交流の第2回招へいを勤青少年国際交流推進センターと日本青年国際交流機構の共催により、7月1日から7日の期間で実施しました。

（社）韓・日青少年交流協会の金振叔会長を団長とする20名の韓国団は、1日に関西空港に到着、まず大阪で開催された「近畿ブロック大会」などを含めた2泊3日の全体プログラムの後、ホームステイのため10名は大阪に残り、10名は長野へ向かいました。7月5日、2グループは東京で合流して総務庁青少年対策本部への表敬訪問、国会見学、プログラムの評価会などを行って、7月7日無事プログラムを終了し帰国しました。

私は日本人なんやね

3年前、初めて韓国に行った時、小学校1年生のかわいい少女から歴史の本を見せられて言われた言葉。

「日本人は大嫌い。韓国人にひどいことをした野蛮人。お姉ちゃんもそう思うでしょ。」

同じ年、総務庁の日・韓青年親善交流事業に参加して、ホームステイ先の大学生から言われた言葉。

「あなたが、初めて会った日本人です。」

今回の韓日交流協会の日本訪問に参加した韓国人から言われた言葉。

「あなたが初めて日本で話した日本人です。」

真夜中までいろんなことを話した別の韓国人から言われた言葉。

「戦争責任を回避する国会決議と日本人には失望した。」

はじめ私は、自分は韓国の人という「日本人」ではない、と思おうとしていた。そう考えると気が楽だから……。逃げてた、「日本人」から。しかし、韓国の人に会って、深い話をするようになるにつれて、自分の中の「日本人」を認めざるを



▲ 今回のプログラムを振り返って意見交換会（東京）

得なくなった。

「そんなに日本人を嫌わないで。日本人は悪人じゃないのよ。」

そう心の中で叫んでいる自分がいた。ショックだった。

私にとって、韓国の人とつきあっていくことは、日本人としての自分のアイデンティティを確立するためにとっても大切なことになっている。

西川真理子

（平成4年度 日・韓青年親善交流団員）

いらっしやい韓国の仲間たち!

大阪での受入れに当たっては、昨年に IYEO 内に組織された「韓国連絡会議」のメンバーが中心となってプランを作り実施することになった。

● 7月1日(土)

午後の便で関西空港に到着。韓国団受入れのチームが共にバスに乗り、最初の表敬先、大阪府青少年活動財団へ。そこで大阪府下の青少年活動事情についてレクチャーを受ける。のち、IYEO 近畿ブロック大会へ合流するべく会場の大阪府立青年の家に向かう。ブロック大会交流会に参加。歌、踊りの楽しい交流が繰り広げられる。

● 7月2日(日)

午前、近畿ブロック大会参加のみんなと小ハイキングの後、「韓国ちじみ VS 日本お好み焼き」と称して野外でのお料理大会。それぞれに腕を振るっての力作とビール片手の昼食会。

午後は、京都市内観光に向かう。初めに金閣寺へ。綺麗な庭と水面に映る金閣に一時の安らぎを受けた後、平安神宮へ。慶州のお寺を思わせる朱塗りの建物を楽しみ、散策。

その日の締めくくりは、宿舎の服部緑地ユース Hostel 到着後、近くの居酒屋での夕食会。大いに飲みそして食べて交流が深められた。夕食会後は、若者を中心としてカラオケに興じる者も……。



● 7月3日(月)

長野県に向かう組は、朝から大阪駅に向かう。途中、交通ラッシュに巻き込まれ、予定の特急列車に乗れず、急ぎよ新大阪駅に転じ、新幹線で名古屋に向かい、先発の特急列車を追いかけることになる。

それら 10 名の長野県行きを送ったのち、大阪残留組は折からの大雨注意報の出る中、午前のプログラムとして、海遊館(大型水族館)へ。巨大水槽の中を泳ぐ色々な魚に驚く。午後は聖徳太子建立の四天王寺と大坂城を見学。夕刻は、ホームステイ家族とのマッチングに臨み、期待と不安を交差させながら、それぞれのホームステイ先に向かう。

● 7月4日(火)

終日ホームステイ家族と共に……

● 7月5日(水)

午前 9 時、それぞれのホームステイ家族とともに、新大阪駅に集合。満足した顔、顔、顔。その場でも、ひとしきり別れを惜しんだのち、10 時発の新幹線ひかり号の車中に。ホームステイ先の家族や IYEO 大阪のメンバーたちの見送りを受け、東京での最後のプログラムに向かった。

◀ 交流に最も熱心な韓国側幹部の一人、李さんを囲んで(左側から酒井副会長、李さん、大森会長)

〈アンケートから〉

大阪でのプログラムのうち、ホームステイが一番印象深いだらうと考え、ホームステイを受けていただいた家族にアンケートを試みた。

6件の回答を得たので、項目に従ってまとめてみた。

1. 今回の受入れにあたり、何か特別な準備をされましたか？

- ・普段通りでありのままを見てもらった 2人
- ・少し手を加えた（掃除をしっかりと、家具を移動した等） 3人
- ・かなり頑張って準備した 2人

気軽にホームステイを受け入れていただいた結果が良く出ているように思える。かなり頑張って準備してくれた人は、大学の寮で受け入れるため片付けが大変だった様子。また、来られる方を想定して、見学先の下見や、友人に依頼して夕食会に参加いただくなどの手配をした様子もあった。

2. 丸一日家族とともに過ごされた行程は(7/4)

それぞれにショッピング、市内見学、学校訪問等々。夕食は、家族とともに、或いは若者グループとともに等、色々。

3. 生活習慣の違いで戸惑われたことは……

- 全くなかった 4人
- 少しあった 2人

風呂を先に済ませてもらったが、次に家のものが入ろうとすると栓が抜かれていて、慌てて湯を入れた。言葉が通じなかったので、体調が悪かった原因がつかめず、また原因がわかった後も食事に対する配慮がうまく伝わらないなどといったことがあった。

4. 今後またお願いするとすれば

喜んで受ける

6人

5. 全般的な感想

- * とても楽しいときを過ごすことが出来ました。日本語がとても上手なので、沢山の話をしました。私たちがあまり韓国の歴史や文化を知らないで、いろいろ勉強になりました。ハングルも勉強してみたいと思いました。どうもありがとうございました。
- * 7月1日からのプログラムに参加していたので、随分親しく交流ができ、沢山の友人にも紹介できて大変満足しています。一生の友人ができたので、本当に感謝しています。
- * 日本の習慣について関心を持っておられたので、我々が日本的な行動をするとき、それについて説明しました。観光より、日常生活に興味があったようです。また、ホームステイした方々同士で困ったことや良かったことなど意見交換ができればと思います。これからもいろいろなノウハウを蓄積していきたいと思います。今回、良い経験をさせていただいたことを感謝いたします。
- * とても喜んで、帰りには泣きながら帰っていかけてくれました。また、東京からも何度も「大阪へ行きたい」という電話がかかってきて、本当に喜んでくれているんだと実感し、私もすごく嬉しくて参加して良かったと思いました。
- * 言葉が殆ど通じない状態で、初めは困ったが、それなりに過ごせたので今後への自信になった。特に子どもは、身振り手振りで結構コミュニケーションを図っていた。カラオケ（韓国の歌）は盛り上がった。

「船と翼の会ふくしま」

当会は、平成5年12月に「日本青年国際交流機構福島県支部」から「船と翼の会ふくしま」と改名し、現在に至っている。

会員数は約170名で①会員相互の親睦をはかる②国際親善と海外知識の普及③青少年の健全育成への寄与を目的とし、事業を展開している。

地区幹事の設置

役員構成は、会長1名、副会長2名、事務局長1名、事務局次長2名で事務局内に地区幹事（5地区）を置いている。その理由としては、福島県は県土が広いと各種事業を統一的に展開するのになかなか難しい面があり、年間の各種事業を地区別に割り当てし、地区幹事を中心として準備、地区の取りまとめ等お願いしているところである。だから、会員が年間を通して最低でも1、2度は当会の事業に参加できるのだ。

次に、会費についてだが、年会費は3千円で、口座振替か現金書留で納入していただいている。

（役員等の努力により徴収率がアップしている）会を運営するにあたっては3千円で十分とはいいがたいが何とかやってはいける。これからも、事業実施のためには会費が不可欠なものであることを会員に再認識していただきたい。

今後の課題

次に、会の問題点にちょっと触れてみたい。最大の課題は、国際交流事業参加者が年々減少していることだ。毎年、福島県内から5～6名程度の総務庁の青少年国際交流事業参加応募者がいるが、事業に参加できるのがごくわずか。これではますます人数、活動の面で尻つぼみになってしまう。だから、県内はもとより多くの人材の発掘と我々の活動のPRをもっともっと強力に推進していかなければならない。

最後に、本年度も地域に根ざした国際交流活動を推進するために、会員だけではなくより多くの人々を巻き込んで頑張っていきたいと思いますので、今後とも皆様のご協力をお願いします。

船と翼の会ふくしま会長 宗像 邦司

（第21回青年の船団員）

人物紹介コーナー

故郷を彫り込んでの版画国際交流

おみ 尾身 伝吉さん（第12回青年の船団員）

「雪と着物とコシヒカリ」の新潟県十日町市で「ふるさとの風景」を制作テーマに、ふるさと再発見にこだわるアマチュア木版画家。海外での個展開催が願いの一つだったが、青年の船の思い出の地「シンガポール」での個展は、新婚旅行の際知り合った会社幹部の協力

で開催。香港展は、新潟大に来ていた香港の留学生との交流が縁で実現した。

奥さんは、大阪出身の青年の船の仲間で、最近まで新潟 IYEO の事務局を夫妻で担当していた。毎年、東京の神楽坂のギャラリーで個展を開いている。

NGO の現場から

さい しょ しん じ
税 所 信 治

(平成6年度ジョルダン派遣団員)



▲ 国際青年育成交流事業で派遣された際にケア・ジョルダンを訪問（筆者、右から2番目）

■CARE（ケア）とは

「ケア」は、第2次世界大戦の戦火に見舞われたヨーロッパ各国の被災者を救援するために、1945年、いかなる宗教、政治からも独立した非営利の民間援助組織（NGO）として、アメリカで発足しました。

現在では、日本を含む先進11か国のケアで構成する国際ケア機構（ケア インターナショナル）に成長し、当初の「物資援助」から「途上国の人々の貧困軽減と生活基盤の構築支援を目的とした開発援助」に活動形態を変換してきました。

ケア ジャパンは、非キリスト教国のケアとして、また唯一アジアにあるケアとして、1987年の設立当初から緊急援助はもとより、アジアを中心とした途上国において、環境、初期医療、所得向上、人材開発など幅広い分野で市民や企業等の協力を得て、国際援助活動を実施しています。

■タイ東北部における援助活動

タイで最も貧しいといわれている東北部の農村でさえ、医療費、日用生活品、オートバイ、都市文化の影響を受けた電気製品などの消費財のため、現金需要は日増しに増えています。しかし、多くの家庭では生活費をバンコクや近隣諸国からの出稼ぎ収入に頼らざるをえず、非常に不安定な生活を強いられているのが現実です。

「ケア ジャパン」では、タイ東北部のウボン・ラチャタニ県において、貧困農家の女性が副業と

して行っている生糸・絹布生産、綿機織り及び陶器製造といった家内工業の育成を支援し、現金獲得の手助けを行っています。

ウボンの土壌、降水量、灌漑設備などの農業条件は極めて悪く、今後も農業による所得向上はほとんど望めず、そこで“乾期に従事する副業を育成し、現金収入を増やす”といった援助計画を事前調査に基づき立案し開始しました。平成4年度より4年計画で進められ、資金はケアの自己負担

のほか、郵政省の国際ボランティア貯金の助成金などによるもので、——ちなみに事業規模は平成6年度（平成6年7月1日～平成7年6月30日）で、約2,000万円——12の村（直接事業受益者600人）を対象に、製品開発、設備改良、市場開拓、組合作り等の事業を日本人コーディネーター（1人）とローカルスタッフ（6人）で実施しています。

私は、去る5月31日から約2週間、ウボン事業の中期評価と新年度の調整のため現地へ行ってきました。

プロジェクトをうまく進めるには、村人はもちろんのこと、村の長老、学校の先生、役人などの意見を無視するわけにはいかず、連日彼らとの話し合いに明け暮れました。

生糸・絹布生産、綿機織り、陶器製造のいずれの分野も専門家の技術指導などにより付加価値の高い製品を開発し、年とともに生産量・収入も増加し、組合員数も増えてきていますが、まだまだ安定した収入源になったとは言えません。

ウボンから出稼ぎに出ていってしまった農民が戻ってこられる魅力ある村作りをめざして、今後もウボンの人々を応援していきます。

織織りのデザイン技術を指導する日本人 ▶
ボランティア・スタッフ
左から2番目の女性はデザイン指導者。
一番右は、バイヤーの目からみた売れる商品についてアドバイスする立場のスタッフ



■NGOの特徴

NGOの援助活動は、政府が行うものに比べて規模は小さいですが、地域に密着したきめ細かい活動が出来ること、国交の有無にかかわらず活動出来ること、さらに自主的な判断で迅速な行動がとれることなどの特徴があります。

ケア ジャパンは、NGOの持つ特色を生かしながら、各国ケアおよび関連団体と協力して人道的立場に立ち、途上国との共生の道を開いていきます。

連絡先：〒171 東京都豊島区雑司ヶ谷 2-3-2

TEL 03-5950-1335

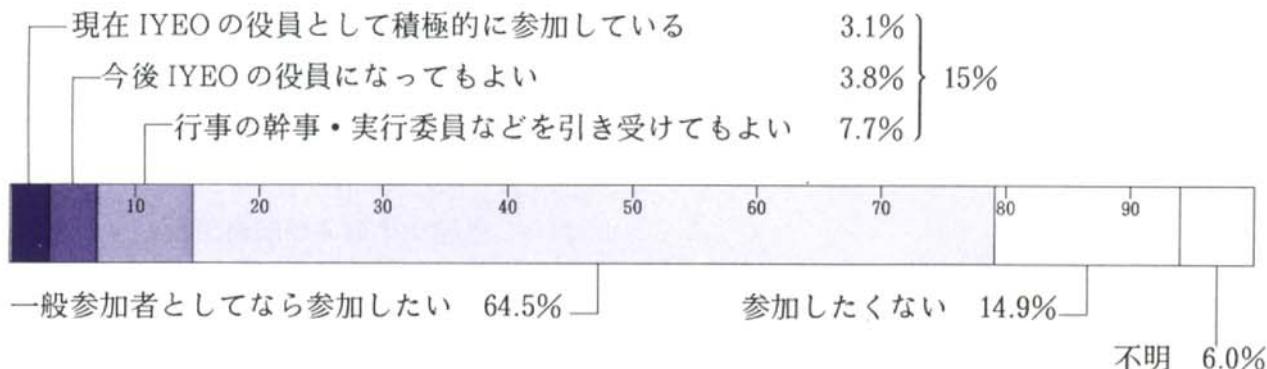
FAX 03-5950-1375

財団法人 ケア ジャパン

海外事業部 税所信治

事後活動の企画運営に参加したい=15%

問22 あなたは、IYEOの国際交流活動の企画や運営に参加したいと思いますか。



「一般参加者としてなら参加したい」という人がほぼ3分の2を占めていますが、世話役として積極的に参加したいという気持ちを表明した人が約15%（6人に1人）います。

「参加したくない」と回答した人も15%いますが、その理由を見ると、仕事、育児、介護、地域活動、団体活動などで「忙しい、時間がない」という人が大部分で、全体として「参加したい気持ちはあるが、いろいろな事情で参加できない」ということのようにです。

その他の理由としては、「もう青年でなくなったので、若い人に任せたい」という趣旨の意見がかなり目立ちました。

参加したくない理由として「有意義な活動をしていない」「活動内容に魅力がない」「参加しにくい雰囲気がある」などIYEOの活動に批判的な意見も散見されました。回答者4,766人のうちの僅か30人程度ですが、他方で、そもそもアンケートに回答しない人が約半数いることを考え、謙虚に受け止めなければなりません。

アンケートの最後の「ご意見欄」から

「結婚して主婦となり、家事、育児に専念していますと、IYEOの活動は、なにか、はるか遠いものを感じられてしまいます。主婦ともなると、地元の国際交流活動に参加することぐらいしかできません。ただ、私が今行っている交流も、もし海外派遣に参加していなかったら、ボランティアで事務局をお手伝いすることもなかったと思います。私そして私の家族は、とても素晴らしい経験をさせてもらっています。海外派遣をととても感謝しています。」
(埼玉県40代主婦 Y. H.)



このページは、平成6年11月にIYEOの全会員を対象に行った「国際交流と事後活動に関するアンケート」(回収率51%)の結果の紹介です。

WHAT'S NEW

SSEAYP 思い出の地ブルネイで

ASEAN 6 か国の中で最も知られていない国ブルネイ・ダルサラームに赴任して早くも2年近くが過ぎ去ろうとしています。大学最後の年に SSEAYP に参加し、その後国際的な仕事に就きたいとの理由で商社に就職、そして幸いなことに今は SSEAYP 思い出の地ブルネイで働いています。

ブルネイにも約130人の日本人が住んでいます。どうも日本人だけで固まる傾向があり、仕事以外で現地の友人を作る事は実際には難しいようですが、私の場合この SSEAYP を通じて多くの友人に恵まれ、また彼らを通じて現地社会とも交流ができ、大変充実した海外生活を送っています。

現地語で団結の意味の BERSATU という SSEAYP の同窓会組織があり、PY が集う各種パーティー、船の受入れ、地元への奉仕活動等積極的に活動しています。私も色々と行事に参加し、PY 達と交流を続けていますが、今後は自分とし

「拝啓 皆さんお元気ですか。
私は、こんなことをしています。」

でもその次の段階、この事業を通じて更に多くの人々との交流、例えばブルネイ在住日本人との交流等も出来ればと思っています。

岩本 修(第16回東南アジア青年の船参加青年)

カンボディアより

MACROCOSM '95. 3月号が海を越え、手もとに届きました。私は今 Cambodia に住んでいます。看護婦としての経験を活かし NGO スタッフとしてプノンペンの病院で働いています。

今年の1月に赴任してきました。その直前の11月には「東南アジア青年の船」地方プログラムの受入れを群馬で担当しました。今回の MACROCOSM Vol. 3 には、その時の懐かしい顔が載っていて大変うれしく思いました。あの時の忙しさと参加青年の笑顔をもふと思い出し、いつの日か、Cambodia の青年にも、このような機会が訪れたらと考えました。その時には、又、是非お手伝いさせていただきたいと思います。

今、Cambodia は一年中で一番暑い季節を迎えています。それでも総務庁の派遣で行ったアラブ首長国連邦よりはずっと涼しいくらいですが……。

こちらでの任期はたった一年ですが、任期終了後再び IYEO の会員として地元で青年の国際交流活動に協力できる事を楽しみにペンを置きます。

武藤千代子(平成4年海外派遣中近東)

◀ 日本から IYEO のメンバーが訪問した際、BERSATU のメンバーの家でホームパーティ(筆者、一番右)



お知らせコーナー

「日本青年国際交流機構第11回全国大会」「第2回青少年国際交流全国フォーラム」
12月2日・3日に開催される大阪の全国大会の申込用紙を同封してあります。家族、友人
も大歓迎ですので、誘い合わせてご参加下さい。
初日「青少年国際交流全国フォーラム」の講師は、イーデス・ハンソンさんです。

ホームステイ & スタディ・ツアー募集

■ブルネイ探訪

「環境」をテーマにジャングルへの体験ツアー
を組み込むなどユニークなプログラムを、ブルネ
イの「東南アジア青年の船」既参加者組織のメン
バーと相談しています。

ホームステイのほか、観光ツアーでは行くこと
の出来ない公式の施設訪問も含んだ企画です。

IYEOメンバー以外の方も、もちろん大歓迎。
家族、友人も誘って国際交流を楽しみましょう。

日 程：11月1日(水)～11月7日(火)

参加費：約17万円

(往復航空費、全宿泊・食費・現地移動費含)

■じっくり韓国滞在、1週間

韓国でのホームステイは、貴重な体験。

本文にもありましたように、共に生活してこそ
互いの壁を越えることが多くなるものです。

観光ツアーや自分一人の旅行では得られない出
会いが、あなたを待っています。

日 程：10月4日(水)～10日(火)

参加費：8万円～9万円

日本からの出発地により異なります。

* 詳細なプログラムをご希望の方は、(財)青少年国際交流推進センターに、電話又は葉書にて送付先をご連絡下さい。IYEOの方は、会員番号の記載をお願いします。

編集後記 ****

アセアンに、これほど活動の仲間がいることを、
多くの方はご存じなかったことでしょう。

総務庁の青少年国際交流事業の与えてくれる出

会いの価値の高さを改めて考えてみましょう。

一時の出会いを、人生の出会いにできるかは、
自分自身の行動に係っています。(Y/R/S/M)

* 本誌の年間講読をご希望の方は、(財)青少年国際交流推進センターまで葉書又はFAXにてお申込み
下さい。年間講読料は1,500円です。

MACROCOSM (マクロコズム) 9月号 Vol.6 1995年9月1日発行(隔月発行)

編 集：マクロコズム編集委員会

発 行：財団法人 青少年国際交流推進センター

〒103 東京都中央区日本橋人形町2-35-14

TEL 03-3249-0767

FAX 03-3639-2436

e-mail @niftyserve.or.jp.

編集協力：総務庁青少年対策本部

日本青年国際交流機構

定 価：195円(本体189円)

印 刷 所：株式会社 絢文社

TEL 03-3959-3960

ホームステイ・ツアーより（フィリピン）

フィリピン新発見 — 「こども博物館」にフィリピンの未来を見る —

当センターの主催により8月に実施したホームステイ・ツアーのフィリピンでの5日間は、東南アジア青年の船メンバーによるあたたかい歓迎と丁寧なアテンドにより、なかなか真似のできない程行き届いていました。

そうした日程の中で、同行してくれた東ア10回の参加者であるリンダが、是非とも訪れて欲しい場所がある

手で触れられる博物館

ここは、先生が一方向的に知識を与える旧態の授業とは大きく異なり、「学習は、楽しく積極的に、多様なものの中から選んで学習した場合に定着しやすい」という信念に基づいて構成されています。こども達は、博物館にある全てのものを手で触れて体験することが出来ます。

メトロ・マニラへ人口の流入が進むにつれて、子供が増え続ける一方で、学習意欲を刺激する場はほとんどありません。

フィリピンの未来のためには、こうした劣悪な条件にある子供達のために、少しでも新しい良き環境を創り出さねばならないと考えられて設立されたのが、この博物館です。

と誘ったのがフィリピンで始めて設立されたという「こども博物館」でした。

最初、「こどもの施設が、それほどの場所なのか？」と不思議に思ったというのが正直なところです。しかし、結果は、新しいフィリピンを教えてくれた、最も印象に残る場所となりました。



▲ 放送局のスタジオを再現してあり、機材を操作できるコーナー

博物館の5つのテーマ

① 文化遺産

民族衣装を着たり、古い民族楽器を演奏したり、古き伝統に直接触れることができます。

② 身体のしくみ

身体のしくみを、あらゆる模型や写真を使って学習します。こども達は、「からだ通り」を進めば、身体と呼ばれる機械の多くの不思議に感謝するでしょう。

◀ 胎児が成長する過程を、図で順を追って説明しているコーナー



③ 環境保護（自然）

自然を保護し環境を守るために、どのように取り組めば良いかを考えさせる機会を与えています。

④ 遊びから科学を

日常生活から遠く感じる科学ですが、実際に会う自然現象を考えることから、その科学原理を見つけさせることでゲームのように楽しく体験できます。

⑤ 職業（自分の未来）

自分で自分の未来を切り開くために、様々な職業が社会で果たす役割を学び、自分で物事を選ぶということの意味を考えさせます。

この博物館設立は、多くの熱心な女性の協力により実現しました。リングダもその一人です。

この博物館には、フィリピンの未来をより良きものに築くために、子供達に願いを託す心が込められています。未来を信じる明るい希望を見ることができます。



▲ 環境保全のために、ゴミ処理について学ぶコーナー
種類別に分けてゴミ集めをすることを示している

名称：MUSEO PAMBATA
所在地：Roxas Boulevard corner
South Drive, Manila

皆さんも、フィリピンに行ったら、是非「こども博物館」を訪ねてください。そこで、目をキラキラさせながら元気に実験している子供達に出会うでしょう。その時、「危ない国フィリピン、貧しい国フィリピン」ではなく、「活気にあふれた未来を目指すフィリピン」に出会えることでしょう。

宮城県との絵画交流

— LEGARDA Elementary School —

昨年の「アジアこども絵画展」を宮城 IYEO でも行ったのをきっかけに、今年から宮城の小学校と絵画交流を始めたマニラの小学校です。生徒数、約 5,000 名の超大規模な学校。

週 1 回絵画の授業がある。生徒たちが、楽しみにしている授業だという。

自分の絵を掲げて嬉しそうな生徒たち ▶

